

日本クリスチャン・アシュラム連盟

Founded by Eli Stanley Jones

冬季号



日本アシュラム

JANUARY 1991

United Christian Ashrams of Japan

73

開心・静聴・充滿・献身・奉仕

▼連盟は創始者の祈りによって各地に生れたファミリーの全国的な交わりであつて、常に新しい地区(単位)の参加を期待している。



創始三五周年日本アシュラム(於アカデミーハウス)

アシュラムの原点と行方

D・P・タイタス

最初に私がスタンレージョーンズ博士に会ったのは、四〇年前のアシュラムであつた。それ以来毎年夏のサトタルで指導を受けた。今四〇年を迎えて、インドでアシュラムがどこへ行くかとしているのかと自問している。インドではサトタルからだいぶ離れたゴジラート州で、アシュラムが盛んに行われ十周年のお祝いをする。サトタル以外のところで盛んにアシュラムが行われることは、それはそれでよいことであるが、私は今インドでアシュラムがどこへ行くかとしているかというのを自問している。

一九七八年輝かしい日本に来た時、私は日本はどういう国であるか知らなかった。いろいろな都市を訪れ、いろいろな人の訪問を受けた。一九八〇年には助言者として招かれ、東山荘でアシュラムに参加した時は、日本のアシュラムはどういう働きをしているか知りたいと思ひ学んだ。今回三回目に日本に来て、このアシュラムはどこに行くかと考える。

アシュラムはどうしてインドで始まったか。また何故日本でも始まったのか。インドでも日本でも強力な教会がすでに存在していて、立派な建造物・聖堂もあつた。インドでも日本でも主導権が建物にあつたわけではないが、何故スタンレー師が一九三〇年にアシュラムを始めたか。

原始キリスト教の時代の聖なる交りを教会に活き返らせたい願ひであつた。教会には原始教会の心が欠けているように見えた。主はこの霊的な運動を祝福し拡大された。アシュラムにはいろいろな宗派の人が集まるが、一つの交わりに結ばれる。教会の儀式や礼拝が形式的になつていたので、スタンレー師はサトタルで霊的な手法で礼拝や聖餐式を行つた。

教会では沈黙冥想の時が殆どなくなつていた。聖霊の働きについて信徒が話しあう時も殆どなくなつていた。スタンレーは私共を導いて冥想の時を持つように、また聖霊の働きについて使徒行伝を用いて冥想するように指導した。インドではキリス

ト教徒がヒンズーやイスラム仏教等を信じる人達と少しも交わりがなく、自分達がキリスト教徒であるというだけで満足しているのを見た。それでスタンレー師はサトタルのアシュラムに、ヒンズー、イスラム、仏教徒、共産党の指導者までも招いて大胆に話しあいを行つた。またスタンレーは町から町を巡回し、仏教、ヒンズー、シーク教徒、イスラム教徒等に語つてもらい、自分もキリストについてはっきりと語つて、それを円卓協議会と名付けた。スタンレーのおかげで何千という智的な人々がキリスト教徒となつた。

西欧でもインドでもキリスト論があいまいで「イエスは誰であるか」「イエスは神であつたか」について大きな疑問附がつけられていた。ヨーロッパに行った方は、今だにそういう状態が続いているのを見るだろう。スタンレーはインドのキリスト教会はインドに根を下ろしていないで、根はヨーロッパやアメリカにあることを見た。インドの教会はインドのものは何もなく、説教も讚美も衣服も皆西欧のものであるのを見て、彼は毎年一ヶ月に互るサトタルのアシュラムでは、インドの衣服をまとうていた。この中にサトタルに行つた方がいるが、以前は床に座つて食事していたが、スタンレー亡き後には椅子式になつた。

振替口座東京〇一四五五八番
理事長 海老沢宣道
編集人 淵江淳一郎
発行人 大江 嗣郎
定価 一部60円 千60円

こういうインドのアシュラムはどこに行くのか。インドのキリスト教の指導者達は、ペーダーやコラーンを知らないでインドでキリスト教を説き得ると思っている。インドの教会は智的な階級の人々と交わりを持ってなくなっている。これは悲劇的なことだ。サンスクリットやコラーンを学んで他の人々が何を考えているかを知ることが時間がかかるが、それをしなければ交わりが持てない。

日本のアシュラムについてはよくわからないが、日本にもキリスト教でない人が多いが、その人々が考えていること興味を持っていてることを学んで、一歩踏み出して交わりを持つことが必要なのではないか。日本の教会は自分達だけのために存在するのか、進んで他宗教の人々と対話することを考えているか。日本のアシュラムの人々はキリスト信者であることだけで満足していないか。他宗の人と対話すべきではないか。

神道について私は少ししか読んでないが、非常に寛容な宗教と思われる。神道は「みそぎ」により身体的清めを求めるが、キリスト者は更に霊的な潔めを求めなければならぬ。神道は鏡を尊ぶので多少偶像的な感じもするが、日本には偶像崇拜が少ないように聞いている。この偶像崇拜の少ない人々

をキリストに導けないものか。あなた方は他宗の人々に福音を浸透する努力をされているか。

また私は日本のキリスト教に属している人々の社会が、非常に西歐化しているのと聞いている。だが西歐諸国が文明化される前に、私達は偉大な文化を持つていた。インドのキリスト教も日本のキリスト教も、西歐の持つていない貴重な遺産を失わせつつあるのではないか。私達キリスト教徒は祖国に根を持つていないのか。インドのキリスト教徒は真のインド人でしょうか。日本のキリスト教徒は真の日本人でしょうか。貴い遺産が破壊されつつあるように思われるが、私達はそれを大切に残していかなければならない。

西歐のキリスト教は物質主義と混濁し聖書から離れている。西歐文化は生活の簡潔性があまり尊重されない。イエスの神秘性も西歐世界には殆ど残っていない。イエス、キリストが高次の神秘な方であることを忘れてはいる。神秘とは何であるか。インドは知っている。日本も知っている。神秘性とは沈黙である。神秘性とは冥想にある。西歐では神秘性とは聖書を読むことと考えがちである。しかし神秘性は聖書を読んで考えをまとめ、聖書をとじて冥想する中にある。冥想とは一つの考え一つの事実を心で集中させることである。西歐では聖書知識に関心が置かれている

が、神秘主義の大きな部分は体験にある。ヒンズー、イスラム、仏教、シーク、スーヒー派等は皆神秘体験を求める。

キリストにある神秘は、私達の存在がキリストを通して神と一致する。聖書は主イエスと私共が一体であるという。イエスは花婿で私共は花嫁、二人は一体である。イエスは葡萄の木私共はその枝、木と枝は一体である。パウロは教会員は一つの身体をなすという。信じるものは一つの身体に属する。天国でも信じるものは一つの身体で、そこには教団はない。メソジストとかカトリックの別はない。一つの群だけイエスの身体だけがある。エペソ人への手紙では、キリストは頭、私達は手足だと言っている。

聖書から同じ例を沢山あげられる。私達は大切な宝、霊的な宝イエスの遺産を失いつつある。これはインドの基督者そして恐らく日本の基督者も、自分の国の他の人々がどういう考えで生きているか。何を信じて生きているかに関心を持ちながらも対話することなく、ただ西歐キリスト教文明を模倣すればよいと考えているからである。しかし西歐は崩壊しつつある。英国は第一級の素晴らしきキリスト教国であったが、もはやキリスト教国とは言えない。教会堂がイスラムやシーク教徒に買われている。フランスも同じくキリスト教

国とはいえない。ドイツの友人からの便りでは、キリスト教の友人達が浮動しているとのことである。合衆国でもキリスト者の数が少なくなっている。何万という人々がヒンズー教徒になっていく。基督者はそれに対応することができない。西歐は神秘主義、キリストにあつての神秘主義を理解しないからである。しかしイエス・キリストは最高の次元の神秘的な人であった。

私達はイエスを信仰によって神と信じる。盲目的に信じるのではなく、イエスが天からの証としてなさったことがすべて自然に受け容れられるようになるからである。私達は神秘的なことであつても受け入れることができる。

インドのアシュラムはどこへ行く。日本のアシュラムはどこへ行くのか。スタンレーから導かれた道から少しづつ離れ、亡びようとしている西歐文明に引かれて深まっているのではないか。老人は天に召されて行く。そこで私はより若い人々がスタンレーの提唱したアシュラムの原点を、もう一度見直し新しい活力を得て新しい動きが始まることを期待している。インドの仲間も日本の仲間も韓国の仲間も、アシュラムがどういふものであるかを西歐の人々に対して、証ししてゆく責任を負っている。(以上神田駿河台二一〇・C.C.ビル内パラビジョン録音テープより)

『イエスは主である』

(ロマ書十章九節)
(コリント第一書十二章三節)

アシュラムの五大原則
キリストへの明渡し

好評・三版出来
海老沢直道著
「アシュラムの原則と実際」

35周年記念全国アシュラム

世界アシュラムの標語



「静聴の時」は、祈りに続いて持つものです。祈りつつ聴くのです。神に語りかけたのですから、そのお答えを待つのです。アシュラムでは大抵早朝六時か六時半から、そのため

折角祈禱室に入り個人的祈りを始めても、その前に以上のような沈黙の時を数分または十分位待つて、心が清められ、整えられなければ、密室の祈りは合同の祈りと大差のないものになるでしょう。

アシュラムの生活では、夜十時から翌朝六時までを「沈黙の時」として、各自が一時間単位で祈禱室に入り、密室の祈りをするのが勧められています。そこでは読むよりも黙想、祈り、静聴することが望ましいと書きましたが、実はそれらのことに入る前に、まず心を静め、神の御前に魂を注ぎ出し、自己を全く無の状態に空することが大切です。この時は他人とは勿論、自分にも話しかけません。神に黙禱も捧げません。一切の邪念を去り、無我の境地に進んで行きます。そこに主イエスが現れて、何を冥想したらよいかを示され、次に何を祈ったらよいかを教えられます。

アシュラムの守り方(6) 沈黙と冥想と静聴 海老沢 宣道

の時間が設けられています。神のお答えを聴く方法は、直接魂にひびいてくる場合もありますが、聖書を通して御言の一、二節が明示されることきそれを心の中で反復冥想して、文字の意味ではなく、その背後にある主の御答をつかむことです。そのことをノートに書き留めて一日中くり返して読むなら、御言に導かれた一日を送ることが出来ます。アシュラムではすぐ後に「恵みの分ち合い」をしますが、日常生活では一日を送った夕食の時などに家族と、その恵みを御言を分ち合うことが出来ます。私たちが弟子たる者は、毎朝目を覚ましたら、まず最初に主イエスに御挨拶をするのが望ましいことです。そのために沈黙に五分、冥想に五分、静聴に五分を聖別するならば、この朝の十五分が必ずあなたを新しくするにちがいありません。

アシュラムでは毎朝次のような挨拶をします。指導者が片手を上げて「主は甦えられた」と言い、一同も片手を上げ「主は実に甦えられた」と応じ、次に親指と小指を組み合せ、手のひらは自分に向け三本指を高く立てて「イエスは主である」と原始教団の告白をもって挨拶をします。



第25回全国アシュラムにてご出席の皆様と共にこのアシュラムと共に九州アシュラムの祝福を祈った。今回の九州アシュラムには希望の助言者が得られず、予定の期日が諸集会所と重なって、果して開催もおぼつかなかった。そこでひたすら箱根で祈り、祈っていたいたわけです。主はその祈りに答えて下さり、十月八・九日の西南河内研修所に従来通りの人数を集めて下さり、助言者の役割は鍋倉、川野、今村、他の牧師方の協力で、素晴らしいアシュラムとなり、費用も充分満たされた上、次回の準備金十万円も残されましたことを感謝をもってご報告いたします。

第25回九州アシュラム感謝報告 山本 繁夫



(三) 聖書の啓導と充満
(四) 神の国の体験と献身
(五) 教会への奉仕と伝道

スタンレー博士に親しく指導を受けた著者がアシュラムの五大原則と守り方を平易に解説。

日本クリスチャン・アシユラム
創設35周年記念

「全国アシユラム」

関東アシユラム書記 新原 迪

このたびは日本にアシユラムが創
始されてより、35年を迎えた記念す
べき全国アシユラムの開催であった。
標記の名称が定まったのは一九九
〇年二月五日の実行総務会(常任委
員会)で、さらに募金目標額二〇〇
万円の子を定め、二回目の実行委
員会でプログラム等細部に至って協
議の結果、開催実務のレールが敷か
れ具体的実務は主として日本アシ
ユラム三役と関東アシユラムのメンバ
ーが加わったが、全国各地の委員
会も加わり、それぞれの分を担って
参加協力によって開催に至った。
開催日程は、アシユラムの発祥地
インドのサトタルからDP・タイタス
師を迎えての三日間(一九九〇年九
月二三日〜二五日)で、しかも最適
な会場として箱根アカデミー・ハウス
が与えられた。

タイタス師もおそらく、日本での
奉仕も、これが最後という思いをひ
そかに抱いたかもしれない。アシ
ユラムの原点からまことに記念にふさ
わしい助言者を主は与え下さったの
である。

よき通訳者も備えられ、「福音の
時」を満たしていただいた。まさに

「イエスは主である」との主題のと
おり霊的体験、静聴、充満に導かれ
ていった。

特にこの度の特色の一つは、周
年記念として、各地区共催の意疎あ
いからも、プログラムが考慮され、
ファミリー・アワーでは、それぞれ地
区ごとに別れ、地元関東アシユラム
にとつては、特に大切な委員改選の
件が諮られ、新年度よりの新しい態
勢づくりとなった。

参加者は 名で(申込は 名)、
超教派で各地から集い、名義ともに
よき交わりを持つことができた。北
海道、九州からも参加され、関西、
四国、東北と実にこうした機会なら
ではの集いであった。

主の豊かなおとり扱いをうけ、そ
れぞれに賜わった御言の恵みと、霊
的充満を喜びとして、各自の使命の
場に散らされていった。

35周年記念アシユラム
献金報告(前号以後)

飯島延浩	五〇〇〇〇〇円
三木晴雄	一〇〇〇〇〇
辻中昭一	一〇〇〇〇〇
古河 治	三〇〇〇〇
松沢ミツ	二〇〇〇〇
芦名直道	一〇〇〇〇
二神陽子	一〇〇〇〇
竹内季郎・トミエ	一〇〇〇〇
草村 美	一〇〇〇〇
横山義孝	一〇〇〇〇
加藤薫子	一〇〇〇〇
田中幸子	五〇〇〇〇
山田ユリ	五〇〇〇〇
河合光治	五〇〇〇〇
小河美介	五〇〇〇〇
中島 彰	五〇〇〇〇
小柳順子	五〇〇〇〇
飯島愛子	五〇〇〇〇
永積泰子	五〇〇〇〇円
無名 氏	五〇〇〇〇
藤本スガ子	五〇〇〇〇
満丸 茂	五〇〇〇〇
三木 弘	四〇〇〇〇
菱尾林子	四〇〇〇〇
西村正子	三〇〇〇〇
吉田ハツ	三〇〇〇〇
阿部順子	三〇〇〇〇
川上さよ	三〇〇〇〇
阿部泰子	三〇〇〇〇
鈴木 剛	三〇〇〇〇
高橋靖夫	二〇〇〇〇
張田宙男	二〇〇〇〇
伊津野佐千雄	二〇〇〇〇
山崎恵子	二〇〇〇〇
南 吉衛	二〇〇〇〇
不明 氏	二〇〇〇〇
合計	一四四、七〇〇

箱根アカデミー会場諸経費合計 1990年11月18日現	
収入	支出
参加申込金 1,693,000 (宿泊費含む)	アシユラム費 1,737,415 全国理事会費 44,415 不足金 44,415
収入合計 1,693,000	支出合計 1,693,000
※不足金は特別会計より補う	
35周年特別会計 1990年11月18日現	
収入	支出
特別献金 (85件) 1,442,000	DP・タイタス謝儀 742,490 (特別献金を含む) 準備費 189,144 印刷費 192,000 その他 13,000
席上献金 220,705	理事旅行費補助 65,000 通訳謝礼(4人) 130,000 アシユラム不足金 44,415
	小 計 1,376,049
	差引残高 286,656
収入合計 1,662,705	支出合計 1,662,705
※残高金は連盟通常会計に繰入させて 頂きました。 尚カナダ60ドル保管。	
会計 大石嗣郎 伊藤愛信	

アシユラム生活の最良の友
アパ・ルーム

(年6回刊行の日々の糧)

国際的、超教派的、霊的な読物

価200円千70円、年1,620円

発行所 (256) 小田原市国府津3-11

振替口座 (東京)1-193834 アパ・ルーム

日本語版は創刊以来41年続行中

東京都目黒区中央町1-21-10
碑文谷教会気付
アシユラム連盟

▼アシユラムとは
取り入れて創始したクリスチアンの祈り、祈禱生活運動である。